

291
4
108

小學修身課書

南摩綱紀編

一

K110.1

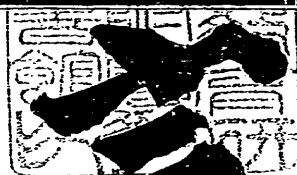
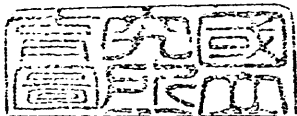
188b

南摩綱紀編

小學脩身課書

明治十五年四月
廿五日版權免許

中外堂藏版



示幾

言忠信
行篤敬

小學脩身課書

文部大書記官辻新次公題辭

中外堂藏版

任初過新次書



序

世有雖多不厭者。豐年之穀與
 教訓之書是也。教多則價賤。得
 以養貧人。書多則教洽。得以喻愚
 人。國之所最病者。在民之貧。與心之

療之之良劑。莫若穀。其書為。然
穀也。天造。非人之所能為。其可為
者。獨以書耳。友人南摩君。舟余
講究。諸身之學。者數年。其餘力
溢為此書。余知其必有益於世。故也。

或人疑。近世著書之。言。他。身。者
甚多。以之。其。得。無。此。屋。頌。加。屋。之
類乎。余曰。世之著修身之書。其
言之矣。行於躬。則。未。也。若。君。躬
能行之者。以其感人之原。蓋。且。其。事。

言語之外者焉。以教訓之書。不厭
之為乎。或人。偶書肆中外
為為此書。常存。因錄其言。以附之。

明治壬午四月伯翁道人西村茂

樹識



小學修身課書

緒言

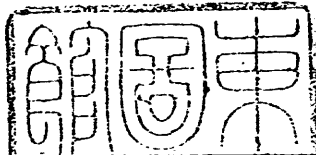
一此書ハ和漢ノ經史及ビ雜書中ニ就
テ。修身ニ關スル嘉言善行ヲ摘採ス。
一或ハ原文ヲ隱括シ。或ハ意ヲ取テ辭
ヲ略シ。或ハ長ヲ縮メテ短クシ。或ハ
一章ヲ分チテ數章ト爲スモノアリ。
其漢文ノ如キハ。皆假字ヲ雜ヘテ。コ

レヲ譯記ス。

一 每章摘採スル所ノ書名ヲ掲ゲテ。其
出處ヲ示ス。中ニ就テ。書名ヲ掲ゲザ
ルモノハ。諸書ヨリ混採シテ。唯其意
ヲ記スルモノニ係ル之ヲ要スルニ。
皆余ガ私言ニ非ザルナリ。

明治十五年四月

編者識



小學修身課書卷一

初等二年後期

南摩綱紀編

天子より庶人に至るまで。

みちを修身を修るを以て本と爲

す。大學

○身を修るは。五倫五常の道

を身に行ふにあり。

○父子親あり。

君臣義あり。

夫婦別あり。

長幼序あり。

朋友信あり。 季子

これを五倫といふ。

親とい親み愛するなり。

義とい宜しき筋に従ひて

行ふなり。

別とい夫と婦との行ひお自

ら差別あり。愛に押れて踰

えざるをいふ。

序とい先後の順序あるを

いふ。

信とい誠實にして偽りな

きをいふ。

○ 仁義禮智信。

これを五常といふ。

人の性にして。萬善の根源を

り。五常訓

仁い人を愛し。物を憐むを

り。

義い宜しきに從ひて。事を

處するなり。

禮ハ次序品節あるなり。

智ハ善惡を知り分くるなり。

り。

右を四徳といふ。

信ハ右の四徳の實にある

をいふ。

○五常の外に心なく。五倫の

外に道なき。五常訓

○子弟たる者ハ能く孝弟を

盡すべし。

孝とい善く父母に事ふる

なり。

弟とい善く兄長に事ふる
をいふ。

○孝い徳の本なり。

教の由りて生ずる所なり。孝經

○愛と敬とい。孝弟を行ふの

主なり。

○愛い親より始む。

敬い長より始む。禮記

○父母を愛敬するを第一と
す。

次に兄弟一族を愛敬すべし。

其次に「他人を愛敬すべし」。
「それより推して、禽獸草木を
愛すべし」。五常訓

○父母に事ふるに温和を主
とす。家道訓

○父母の命に違ふべから

ず。禮記

○父母の教誡に従ひて、怒り
恨むべからず。同

○君子の本を務む。孝弟の仁
を爲すの本なり。論語

○出入する時に必ず父母に

小學各身課書 卷一 七 中外堂藏板

告ぐべし。禮記

○父母在せば遠く遊ばず。

遊ぶこと必ず方あり。論語

○朝と夜とい。必ず安否を伺

ふべし。禮記

○父母に事ふるに。冬は温か

に。夏は涼しくす。同

○父母愛すれば喜びて忘る

べからず。同

○父母惡むとも。懼れて怨む

べからず。同

○身體を傷つけざる。孝の

小學各身課書 卷一 七 中外堂藏板

小學傳身錄書 卷一 中外堂藏板

始なり。孝經

○名を揚げて父母を顯すは。

孝の終なり。同

○君子は親に孝なり。故に移

して君に忠すべし。孝經

○兄に順なり。故に移して長

に弟すべし。同

○孝は親を寧んずるより大

なるはなし。揚子

○高き處に登るべからず。小學

○深き淵に臨むべからず。同

○父に非れば生れず。

師に非れば知らず。

故に父師に事ふること一の

如くすべし。國語

○君に忠を盡して我身を

忘るべし。初學訓

○徐に行きて長者に後るこ

れを弟といふ。孟子

○疾く行きて長者に先たつ。

これを不弟といふ。同

○已より年の倍長むる人に

は父として事ふべし。

十年長ずる人には兄として

事ふべし。

五年長ずる人には、並び行きて

て、稍々後るべし。禮記

○長者の賜ふ物の辭退すべ

からず。同

○己に如かざる者を友とす

ること勿れ。論語

○文を以て友を會し。友を以

て仁を輔く。同上

○善を責むるは朋友の道なり。

孟子

○居處い必む恭しくむ。

歩立の必を正しくむ。

視聽の必を端しくむ。

言語の必を謹しむ。

容貌の必を莊よむ。程董學則

○途に長者に遇はば必ず敬

禮すべし。禮記

○玉琢かざれば器を成さず。

人學ばざれば道を知らず。同

○時過ぎて後に學べば苦み

て成り難し。同

○獨り學びて友をなれば孤

陋にして見聞寡し。同

○人の徳義と才智を益すの學問にあり。

○學問の山に登るが如し。急

れは日日に下る。靜寄語錄

○大人の學の道の爲にす。

○小人の學の利の爲にす。揚子

○千里の行は足下に始む。老子

○書は熟讀せざれば用に立

ち難し。省儉錄

○書を讀むの精熟を貴びて。

多を貪るを貴はず。初學知要

○光陰は惜むべし。逝水の如

顔之推

○日晷一たび移れば。千年再
び來らず。省譽錄

○人生一たび死すれば。萬古
再び生ぜず。同

○善に習ひば。日々に樂む。

君子訓

○惡に傲ひば。日々に苦む。

○惡に趣き易し。慎むべし。

○善に進み難し。勉むべし。

同

○善を積む家には餘慶あり。

易經

○不善を積む家には餘殃あり。
り。同

○身を立るは。學を勉むるを

以て先とす。五種遺記

○學を勉むるは。書を讀むを

以て本とす。同

○書を讀むこと百遍なれば。

其義自ら通ず。童蒙須知

○自ら敬すれば。人も亦已を

敬す。讀書錄

○自ら慢すれば人も亦已を

慢す。同

○吾が能に矜るゝ恥あり。畜徳録

○吾が不能を飾るも亦恥を

り。同

○明鑑は形を照す。往古は今を知る。孔子家語

○前車の覆るは。後車の戒な

り。賈誼新書

○大なる過ちは。少一の忍び

ざるより起る。畜徳録

○己が欲せざる所は人に施

すこと勿れ。論語

○君子は己に求め小人は人

に求む。同

○己を責むれば身修まる。大和俗訓

○人を責めざれば恨まるる

ことなり。同

○惡は小なりとも爲すこと

勿れ。昭烈

○善は小なりとも爲さざる

こと勿れ。同

○過ぎたるい及ばざるが如

小學修身課書卷一終
中興堂藏版

論語

○進むことと銳ま者は退くこと速なり。孟子

菱潭書

小學修身課書卷一終

明治十五年四月廿五日版權免許
明治十八年四月九日四刻御届
明治十八年四月出版發賣



青森縣士族

南摩綱紀

麴町區富士見町二丁目七番地

東京府平民

柳河梅次郎

日本橋區本町二丁目十番地



編輯人
出版人

製本發賣所

佐賀縣下佐賀郡白山町九三番地

吉田庄藏

書肆

小學修身課書

南摩綱紀編

二

K1101
112
2